

浄土

monthly
JŌDO

June 2000

6



法然上人鑽仰会

テレコムしよう。



コミュニケーションの未来へ

日本テレコム

お申し込み、お問い合わせは
お客様センターへどうぞ



0088-82 (無料)

(受付時間) 9:00~23:00 (年中無休)

インターネットホームページ <http://www.japan-telecom.co.jp/service/>

国際電話は **0041**、市外電話は **0088** でテレコムしよう。

寺に歴史あり。
人々に信仰あり。

日本の
心の故郷を紀行する。

寺院紀行

塩竈



雲上寺第三十四世東海林良雲住職と
良昌副住職。下は雲上寺本堂

雲上寺



寺紋のしなりみつびきが入った
天蓋、そして天井絵と内陣の見
事な荘厳

本尊は鎌倉時代作といわれる阿
弥陀如来坐像



開山地から現在地に移ったのは当時
木材廻船問屋だった佐藤善佐衛門氏
の巨資の寄進によるが、その佐藤家
の秘仏、浪越如来も一緒に寄進され
た。鹿島瀬沖で網にかかったこの阿
弥陀如来像は今も秘仏となっている



平成6年に新築された仏教文化センター（右手前）。その左に並ぶのは山門と本堂の屋根



仏教文化センターのサンガホール。絵画が趣味という住職は壁面をステンドグラスで飾っている



雲上寺東海林良雲住職。良の字は東北に広まった浄土宗名越派の僧侶に使われる字だという

京都の国学者、村井古巖による庭園。
木々が大分成長して歩道が隠れてしまっているが、趣ある名園だ



奥州の地を回った古巖は帰路、この塩竈で他界する。その死を悼んだ碑と学問地藏が並ぶ。古巖の遺骨もここに埋葬された

塩竈仲卸市場。一般の買い物客も入る市場は早朝から活気があふれている



塩竈神社。一森山に広がる境内はまさに杜にふさわしく木々が生繁っていて、神聖な雰囲気漂わせている

浄土

2000/6月号 目次

カラーグラビア寺院紀行 塩竈・雲上.....写真=タカオカ邦彦	1
忘れられた生「命への畏敬」.....矢島道彦	6
表紙・懐かしき玩具「糸鞠」.....芝崎慶三	15
寺院紀行 塩竈雲上寺.....真山剛	16
連載 法然上人をめぐる人々.....石丸晶子	26
列伝 稲垣真我先生.....真野龍海	34
響流十方.....	38
コラム 浄土宗と浄土真宗.....	42
Jフォーラム.....	43
「楽しくお寺へ」をテーマに.....藤木芳清	44
浄土誌上句会・特選作品展.....選者=増田河郎子	48
マンガで楽しい仏教用語.....藤井ひろし	51
編集後記.....	52



表紙題字=浄土門主 中村康隆猥下
表紙撮影=芝崎慶三
アートディレクション=近藤十四郎
協力=迦陵頻伽舎

忘れられた 生命への 畏敬

— 生命倫理委員会の報告書を読んで —

矢島道彦

私は日の光を浴びて輝く氷の結晶を砕かず、木の葉を木からもぎ取らず、歩く時はどんな虫も潰さないように気をつけている。

これはかのA. シュヴァイツァーのことばです。医師でありまた神学者でもあったシュヴァイツァー博士は、「生命への畏敬」(Reverence for Life)というものを説きました。R. ナッシュの『自然の権利——環境倫理の文明史——』という本をみると、これに関連して次のように述べられています。

シュヴァイツァーは、生への畏敬の念というものは人類だけを対象とするものではないということを実証した。かれは「これまでのすべての倫理の大きな過ちが人間同士の関係のみを扱わなければならないと信じてきたことである」と書いた。かれの目にはこう映っていた。「生命そのものが当人にとって神聖なものであり、植物や動物の生命も人間の生命同様、神聖であると考える人のみが倫理的であるといえる。」

医療の発展に伴って出来る今日のさまざまな倫理問題を考えるなかで、もはやこのような倫理観は一顧だにされないという訳でもないのでしょうか、先日、某局のテレビ番組のなかで放映された光景は、まさに〈人間中心主義〉もここに極まれり、といったもので

した。

ご覧になった方も多いかと思いますが、それはネズミの背中に人間の耳が生えているという、大変ショッキングな映像でした。せわしなく動きまわるネズミの背にキノコのように生えていたのは、紛れもないヒトの耳です。あの映像をみて、なんともやりきれない気持ちになったのはたぶん私一人ではないでしょう。

シヴアイツァーの倫理観と現代医療の世界のそれは、誰の目にも大きく異なっています。「私は日の光を浴びて」云々と述べるとき、かれはけっして比喩的、文学的に何かを述べようとしたものではありません。このように私は生活していく、といっているのです。今日の、たとえば右にあげたテレビの映像のように、動物の体を生産工場にすればへ人体部品ビジネスも問題はなからうといわんばかりの風潮は、いったいどこに起因するのでしょうか。生命の尊厳を忘れ、人間中心に利用価値ばかりを求める医療の現状には、何か空恐ろしいものをさえ感じるこの頃です。

ところで、日本の科学技術会議に設置されている委員会の一つに、生命倫理委員会というものがあります。近年は、やれクローンだ、やれヒト胚だといった具合に委員会も随分と忙しそうで、矢継ぎ早にいくつも小委員会が設置され、議論が行なわれています。

私はたまたまいくつかの小委員会の報告書を目にする機会を得たのですが、読んでい

うちに、委員会の議論には何か重大な倫理上の欠落があるのではないかと思うに至りました。それは生命倫理委員会の基本姿勢そのものに関係し、それが各種小委員会の性格をも歪めているのではないかと思えてきたのです。委員会では医療に関わる倫理上の問題を幅広い視点から議論して欲しいと私たちは思っています。そしてそのように議論が尽くされていると信じていたのですが、実際はそうではないようです。具体的にいうと、生命倫理委員会では、あらかじめその所掌事項を「人に関する」と規定し、議論の対象・範囲を狭く限定しているのです。

こうした限定のために、どういうことになるか、手許にあるクローン小委員会の「中間報告」（98年）を例にとつて一部ご紹介しましょう。報告書の性格上、いろいろ難解な述語も出てくるかも知れませんが、読みにくい点はお許しください。

まず、同報告書の「規制」に関する記述のなかで、クローン技術の人以外の動物の固体を産生する目的のための適用についての文ですが、「動物の保護・管理のあり方そのものに関して更なる検討が必要であれば、本小委員会とは別途の場を設けて検討すべきである」とあります。ここで「更なる検討」というからには、ある程度の検討はしたのかと思えば、そうではありません。報告書を読む限りそのような形跡は認められないのです。また必要な場合に設けるといふ「別途の場」も、これだけでは何のことかわかりません。要するにこれは、クローン技術そのものの可否の問題につながるような、生物一般の固体のクロー

ン産生をめぐる議論はしません、ということであり、もちろん生命倫理委員会の基本姿勢に基づいて出された方針なのです。

そして報告書は、人以外の生物固体のクローンを作ることにについては、あたかも世界の趨勢としてすでにこれを容認し、人間への適用のみを問題視しているかの如く決めつけているのも気になるところです。「各国の対応」を掲げていますが、そこに紹介されているのは、欧米諸国あるいは欧米主導の国際機関の対応ばかりです。なぜそれをもって世界の趨勢のようにいえるのでしょうか。「細胞中のDNAのクローンや動物のクローンは禁止しない」としたクリントン法律案をはじめ、人以外であればクローン技術は無条件で認めるような欧米各国の対応を示せばこと足れりといった、いわゆる欧米追従型のやり方です。むしろ文化的な土壌もさまざまに異なっているであろうその他の国々の対応を、もっと時間をかけて慎重に見極めるべきでしょう。

クローン羊の誕生を契機に、人への適用を厳しく規制すべきは当然のことです。これについて議論の余地はないと思います。しかし問題はむしろ、人への適用の是非に焦点が当てられることで、人に適用しなければ何をしてよいといった、まさに今日のような風潮を生みかねないことにあると思います。報告書によると、「ライフサイエンスに関する研究開発基本計画について」の審議でクローン技術に関わる問題が取り上げられ、その検討結果としてとりまとめられた答申に、クローン技術を用いた動物のクローン固体の産生や

固体を産み出さない人の細胞の培養等については、「畜産、科学研究、希少種の保護、医薬品の製造等において大きな意義を有する一方で、人間の倫理の問題等に直接触れるものでないことから適宜推進することとすべき」とされたとあります。これには正直いって、たいへん驚きました。クローン技術を用いた動物のクローン固体の産生などが「人間の倫理の問題等に直接触れるものでない」などどうしていえるのでしょうか。倫理というものを非常に狭く捉えているようです。

ついではがらえば、こうした倫理の矮小化は、ごく最近のヒト胚の問題に関する議論にもみられます。生体を構成するあらゆる組織・器官に分化する能力を持つというヒト性幹細胞の樹立のために、「他の哺乳動物」の細胞を用いた実験を踏み台とすることについて、その是非が問われた形跡はまったくありません。実験に他の動物を利用することに異議を唱えていては、医療の進歩発展などあり得ないといわれるかも知れませんが、しかしクローンやES細胞（肺性幹細胞の一種）などの問題ともなれば、ヒトに限定せず、広く生命の尊厳について配慮し、研究の可否そのものを問い直す必要があるのは当然ですし、ましてや由来の異なる細胞を結合させるキメラ胚とか、異種間の配偶子を受精させるハイブリッド胚といったものとなれば、そうした議論は不可欠であり、避けて通れないはずです。

こういうわけで、所掌事項を「人に関する」と限定したことによって、生命倫理委員会

の議論の裾野は極端に狭められています。そして当然のことながら、そのもとに設置される各種小委員会の性格も大きく歪められてしまっているのです。医療技術の発展を是とし、善とする考え方からすれば、人以外のものへの倫理上の配慮などは一切不要なのでしょう。しかし、問うべきは「人間の倫理」であつたはずです。平たくいえば、人としてどうふるまうか、どう生きるか、です。その場合、対象は人間のみであつてよいはずはなく、広く生命世界に対して、どうふるまうかが問われているのです。にもかかわらず、委員会では生命の尊厳を広く議論することを始めから放棄し、対象を極度に限定して、もっぱら「人間のための」倫理のみを議論していることに私は不満を感じざるをえません。他の種や個々の生命体に対する倫理的配慮をどうするかは、本来、委員会の主要なテーマの一つでなければならぬと思うのですが、そうした議論は悲しいかな、この生命倫理委員会に求めることはできないようです。テレビで放映されたマウスの映像も、こうした倫理の矮小化と無縁ではなく、むしろ両者は軌を一にしているように思われてきました。

こういう生命倫理の方向性とは逆に、今日、一方では「倫理の拡大」も叫ばれていることは一つの救いともいえましよう。これもまた、西洋世界から起こってきた思想運動ですが、倫理の拡大、つまり人間だけでなく、人間以外の動物やその他の生き物、自然物にまで倫理的な配慮を求めるものです。とくに環境倫理とか、あるいはディープ・エコロジーといった思想運動に見られる考え方です。詳しくは述べませんが、こうした倫理の拡大、

あるいは権利概念の拡張を後押しする大きな力となってきたものに、東洋の宗教思想、とくに仏教や禅、またインドの宗教思想などがあります。冒頭にも紹介したシュヴァイツァーの倫理観も、多分にインド的な倫理意識に支えられているものと私には思われます。

かれは、インドの諸思想を研究して、古代インドにおける不殺生（アヒンサー）の確立を「人間の精神史において最も大きな事件の一つ」として評価しています。そしてインド的思惟は、「倫理には限界のないものだ」という偉大な発見をするまでに至った」とも述べています。この「倫理の無限界性」を初めて明瞭に表明したのは、ジャイナ教であったとされていますが、生きとし生けるものを守り、慈しむという思想は、仏教でも慈悲の思想として重んじられたことはご承知の通りです。

昨年亡くなられた中村元博士は、『東洋人の思惟方法』のなかで次のようにインド人の倫理観を分析しておられます。最後に紹介したいと思います。

インド人は……人間と動物とを含めて「生けるもの」という概念を立てる。……實際問題として人間を意味している場合にも、なお「人間」という語を用いないで、「生けるもの」という呼称を用いている場合が非常に多い。そうしてこういう態度はインドのあらゆる宗教を通じて認められる。インド人は一般に「生けるもの」としての自覚において生きているのである。したがってインド人の倫理思想によれば、倫理的活動の行為主体は「生

けるもの」なのである。倫理的行動は単に人間相互の行為的連関にのみ限ることはできない。それは生けるものと他の生けるものとの関わり方にまで拡張されなければならぬと考えていた。インド人の倫理は「生けるもの」相互の倫理であつた。

ここでいわれている「生けるもの」とは、私たちになじみ深い仏教語でいえば「衆生」がこれに当ります。仏教の衆生は、他のインドの宗教と比べると、多少概念的に狭められています。しかしそれでも人間を含めた、広く心・意識を有する生き物（有情）を意味していることに変わりはありません。人間は「生けるもの」であり、その倫理もまた「生けるもの」相互の倫理でなければならない。これがインドの、また仏教の、倫理であるわけです。

人間の倫理が厳しく問われているいま、私たちはどのような倫理を目指し、どのような生き方をしていたらよいのでしょうか。もとより人の倫理意識も価値観もさまざまなであり、何か一つの正しいものがあるわけではないでしょう。しかし、ヒトの耳を背中に乗せたマウスをみると、私たちはいまこそ「生けるもの」相互の倫理を、またシュヴァイツァーの「生命への畏敬」（Reverence for Life）を思い起こし、心に銘記すべきではないかと思われてなりません。

（鶴見大学短期大学部助教教授）

懐しき玩具

撮影

芝崎慶三

布、綿などの上を五色の絹糸や綿糸でかがって作った手鞠を糸鞠という。鞠の歴史は古く、まずサッカーのような大人の男の遊びとして蹴鞠が唐から伝わり、平安朝からは手鞠として定着した。それも最初は手玉式に手鞠を高く投げ上げ、それを受け止める遊びだった。この曲芸を業とする旅芸人は品玉遣いと呼ばれたという。

弾力を持った綿の普及によって今度は下方、床面に突いて遊ぶ手鞠が作られるようになり、江戸時代には少女の玩具として完全に定着する。

明治以降、ゴム鞠がこれに変わるまで長い生命を保った。いまでも残る鞠つき歌はたくさんあり、数取り式に長くつき通す遊び方が流行り、少女たちはこれを競った。

寺院紀行

塩竈

雲上寺

撮影・タ力才力邦彦

文／真山 剛

雲上寺山門



北に日本三景の一つ松島、西に日本三大史跡の一つ多賀城、この東北を代表する名所旧跡には含まれた、これもまた風光明媚で歴史が息づく町、塩竈の奥鹽山雲上寺を訪れた。

雲上寺は東北本線であれば塩竈駅、仙石線なら本塩竈駅が最寄り駅となるが、両駅とも社の都仙台から十五分前後の距離である。

どちらの駅で降りてもすぐ目に入るのは小高い山や丘である。かつて奥州の玄関として多賀城に国府がおかれた頃は、海にいくつもの小島が浮かぶ地形だったという。その島を削り海を埋め立てて栄えてきた歴史が、今も町並みにいくつも残る削りとられた小山や丘の跡にうかがえる。

雲上寺はもととも一森山にある塩竈神社の背後、寺囲の山頂に建立された。元和元（一六一五）年のことである。その後延享四（一七四七）年に現在地に移転しているが、この地も山腹で、平成七年に新築された新会館雲上寺仏教文化センター、同時にリフォームされた山門、客殿、本堂が斜面にきれいに連なり、その後段々畑のように約七百の墓が整然と並んでいる。

正徳六（一七一六）年の塩竈の火災で寺歴を今に伝える文書類は残っていないが、仙台市内にある同じ浄土宗寺院、成覚寺の良袋上人によって開かれた寺院である。成覚寺は塩竈神社との関係が深く、塩竈神社の奥に雲上寺が建立されたようである。



JR東北本線塩竈駅。塩竈には、西、本、東と頭に付く塩竈駅がある。

その開山の地には現在も雲上寺の墓地が残っている。その墓地は市立第一中学校をはさむように二カ所残っているが、山頂の墓地は隣の一森山よりも高く、雲上という寺名、奥鹽山という山号はここからきたのではないかと推測したくなる。また山腹に残る墓地にはかつて塩竈神社の別当として権勢をふるった真言宗の寺院、法蓮寺の歴代上人の墓石が移されている。

法蓮寺は室町の頃に開かれた古刹だが、明治の廃仏毀釈でその歴史を閉じてしまった。それゆえ現存する塩竈市の寺院では雲上寺が最も古い寺院、古刹となる。また塩竈市内には全部で四つの寺院しかない。それも伊達藩の関係で臨済宗の寺院が多く、浄土宗寺院は隣接する多賀城市や松島町にはない。

こうした環境のせいだろうか、境内墓地、開山の地の墓地、そして雲上寺の檀家が土地を寄附して作られた市の霊園にも雲上寺の墓地があり、墓の数は合わせると二千を悠に超える。これだけ多くの檀信徒を持つのは貴重な浄土宗寺院だからであろう。

「うちは何でもオープンですから、檀家さんの数もありのままです。ですが、今の数になったのはここ二十年ぐらいです」

こう語るのは雲上寺第三十四世東海林良雲住職である。住職は昭和十四年生まれ。父である先々代良應住職から先代良晃住職が継ぎ、その先代が遷化した昭和四十九年から住職になられて、はや四半世



塩竈神社には芭蕉も訪れている。雲上寺はこの神社のすぐ裏の山に開山された

紀が過ぎていく。その間、先々代が昭和七年に創設した日曜学校から続く子供たちの宗教情操教育の伝統をしっかりと継承し、先代が昭和四十年に完成させた本堂、客殿の伽藍整備を引き継いでいる。子供たちのためのナムナム寺小屋に土曜教室、また雲上寺スカウトである、日本ボーイスカウト塩釜第四団、ガールスカウト日本連盟宮城第十九団の本部を寺に置き、住職、登志子夫人がそろって団長となっている。両スカウトとも設立十五周年を迎えたが、夫婦そろってのスカウト活動について、住職には印象深い思い出がある。

「妻がガールスカウトに積極的に参加するきっかけは、宮城蔵王で第八回日本ジャンボリーが開催されたことと、それにともない浄土宗スカウト仏教章研究会が開かれたことです。浄土宗スカウト協議会からスカウトに関わるお坊さんがたくさんお見えになりましたが、妻はそうした方々の本心に心優しく、お坊さんらしいその姿に感激し、スカウトを始める決心をしたのです」

雲上寺にはこうした教室やスカウトに加え、二十二年目を迎える仏教青年会、青年会卒業後の無量会、婦人会、さらには浄土宗総本山のおてつぎ運動の信行奉仕（雲乗会）、詠唱部会といった、それぞれ老若男女、檀信徒関係なく誰でも参加できる会がある。境内入り口にある掲示板は各種行事案内で一年中あふれている。

こうした行事や各種会合、催しにと建設されたのが仏教文化セン



境内入り口に立つ法然上人像



本堂は椅子席になっている。葬儀は
本堂で行い、新会館では葬儀や法要
はしない



雲上寺客殿、黒谷会館。会館左手前
には善導大師千三百年遠忌にあわせ
て作られた二祖対面像。製作者は雲
上寺のある南叟出身の佐藤允了師



空間を利用した設計の黒谷会館。正
面は本堂への階段。この右手奥に庭
園が広がる

ターだ。「つどう・なかま・キラリ サンガホール」をテーマに平成七年六月に落慶式が行われた。椅子席で二百人は入れるホールはまさに雲上寺の新しい拠点である。ところが、その翌月から住職が総本山知恩院の執事に任命されたのである。

「実はスカウトで大変お世話になっている牧先生が知恩院の執事長になられ、その牧先生のご指名だったのです。新会館もできたばかりで、さあ、これからという時でしたから、大分迷いました。ですが牧先生は尊敬する方でしたので、お受けさせていただきました。でも檀信徒のみなさまにはご迷惑をかけてしまつて……」

月に約二十日間は京都に滞在する生活が始まつた。

一期四年が昨年過ぎ、現在二期目に入っている。塩竈から京都、いくら飛行機があるとはいえ、行き帰が大変である上に、何より自分のお寺には月に十日程度しかいられないのである。行事も多いし、檀信徒も多いだけに帰宅したらやることだらけだという。しかし、自分で決めたことと住職は黙々と仕事をこなされている。そうした姿に家族、檀信徒も協力を惜しまない。

僧侶を意味するサンガとは、仏の教えに従う人々の集まりのことを言うが、雲上寺にはそのサンガがあり、住職不在時の雲上寺を支えているのはまさにそのサンガに違いない。昭和四十六年、黒谷会館・庫裡・鐘楼堂が落慶されたが、その記念誌の挨拶文で、住職は



天蓋には寺紋の「しなりみつびき」が入っている。珍しい紋です。雲上寺とわかるそう。

見えない大きな力と、檀信徒への感謝の気持ちを述べるとともに、僧俗一体の寺作りの念願を述べている。以来のたゆまぬ努力が今日の雲上寺を築き上げてきたのである。

さて雲上寺のある塩竈の歴史だが、非常に興味深くかつ面白い。多賀城への海路国府津として開け、市が立ち、奥州一の宮の塩竈神社、その末社であり、かつての製塩を今に伝える神釜を四体安置する御釜神社の両社をシンボルとし、さらに日本三景松島への入り口にあたる。松尾芭蕉を始め多くの文人、旅人がこの地を訪れた。また日本一のマグロの水揚げ高を誇る天然の良港であり、水産物の加工では日本一。塩竈は奈良の昔から現在まで、話題に事欠かない。

そうした塩竈の古いエピソードを紹介しよう。

かつて奈良時代にこの地を訪れた役人にその美しさを伝え聞いた大臣が、京都に別荘を建てこの塩竈の景色に似せた庭を作り、難波から海水を運んだ。そうしていつかは、この他に類を見ない美しい塩竈へいきたいものだとかかれていたのである。

今も京都にこの塩竈の地名が残っているが、千二百年以上もの昔からこの塩竈はその名を馳せていたのである。

ところで、この塩竈の地名についてだが、かまの字は普通は「釜」と書くのに、竈と書くには訳がある。実は「釜」と「竈」とは意味が異なる字で、新字旧字というわけではないのだ。「釜」はいわゆる

塩竈港から船で松島に向かうとすぐの左手に見える竈島。塩竈神社の末社、曲木神社が鎮座している



塩竈港。東北の玄関仙台湾として栄え続けている



る道具としての釜を意味し、「竈」は塩を焼く竈場のことを意味する言葉である。つまり塩竈は塩を焼く場所という意味だ。

「さけとさかなとやしろの町」なんですよ、塩竈は」と住職は言う。魚と社のほかに酒がでたが、酒造の歴史も古い。酒作りのものとなる米は、北上川から多量に運ばれてくる。「浦霞」、「一の蔵」、「男山」の名を聞いたことのある読者は多いだろうが、これら蔵元が軒を並べる。その一軒、男山の蔵元は雲上寺の檀家である。

檀家といえば、魚肉で加工品の代表格ともいえる竹輪。この竹輪を発明した松本水産も雲上寺の檀家だという。また仙台藩四大画家の一人、小池曲江の墓もあり、その末裔も檀家である。さすがに古刹だけにそこに眠る人もさまざまである。

また客殿奥の庭園は京都の国学者村井古巖によるものだが、塩竈神社の神官でやはり国学者であった藤塚知明を訪れた折に、雲上寺に立ち寄り庭園を作った。古巖はその後東遊を続け帰路に知明宅で風邪をこじらせ他界した。知明はその死を悼み、碑を建て雲上寺に葬った。雲上寺にはその碑とともに古巖を偲ぶ学び地蔵が祀られている。この他にも、鎌倉時代作といわれる本尊阿弥陀如来像、浪越如来像、涅槃絵など雲上寺にはいくつもの寺宝があるが、一番の寺宝は僧俗一体となったサンガに違いない。

何でも話せるお寺、これが雲上寺の宝である。

(ルポライター)

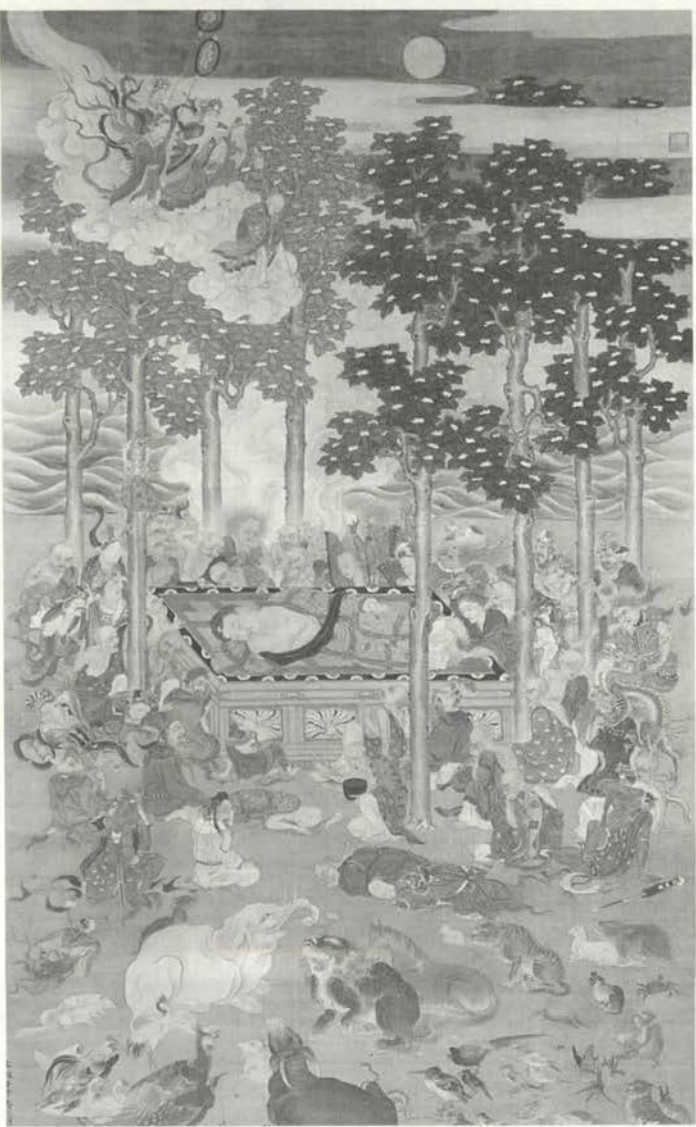


雲上寺歴代上人の墓。開山から数えると現在の三十四世は多いが、その理由は定かではない



仙台藩四大画家の一人、小池曲江の墓。曲江の作品は雲上寺にも残っている

仙台藩四大画家の一人、小池曲江の涅槃図。曲江の墓は雲上寺にある



法然上人鑽仰会講演会のお知らせ

「法然上人の魅力」

講師 ^{あ ま と し ま ろ} 阿満利磨

『法然の衝撃』

『法然を読む』著者

明治学院大学教授

それまでの宗教意識を改革した法然上人の念仏。その念仏にこめられた“思い”とは。いまなお色あせない法然上人の魅力を探る。

日 時 平成12年7月4日(火曜日)

午後3時より

会 場 増上寺慈雲閣(都営三田線御成門下車徒歩3分)

参加費 無料(申し込み不要)

問い合わせ先

—法然上人鑽仰会—

〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4 明照会館4階

電話 03-3578-6947 FAX 03-3578-7036

「書きおろし連載小説」

石丸晶子

法然上人を
めぐる人々

式子内親王の生涯（第二部）

第六回 残された人々

十六

「大風の夜でありましたとか。南都のことは不幸な事件でありました」

重衡に視線をあてたまま義経はいった。大軍をひきいて都に上る前、南都焼亡のうわさは義経も鎌倉で耳にしていた。

重衡は声をつまらせて、

「もとはといえばすべて私の罪。地獄に堕ちるは必定なれど、懺悔して、かなうことならみ仏の慈悲にすがりたい」その目に涙があふれた。

「出家がゆるされぬのであれば、せめて、犯した罪の懺悔をきいてくださるごなか御僧に対面することはできぬであろうか」

このこと、切にお願い申す、と必死のいろをうかべて重衡はいった。

「——さて、それも院のおゆるしを仰がねばなりませんまい」

義経は困惑のいろをうかべた。後白河が、そうやすやすと僧との対面をゆるすとは思えないのだ。

「身も心も闇にとざされたまま、来世でもこのまま——」やつれた顔を蒼白にして、だれにともなく呟くような声がもれた。

義経はそんな重衡を無視する態度でしばし黙っていたが、

「ところで」

と一つ咳ばらいをすると、

「先程いわれた今一度逢うておきたい女性のことでござるが」

と話題をかえて、

「鎌倉に下られる前に、その女房に逢うていかれよ。男女の仲のこととあれば、院のおゆるしもいりますまい。この九郎、仲立ちをいたしますぞ」

「……」

「懺悔のこともさりながら、都に女房をのこしたまま鎌倉へとあれば、その女房の恨みも

「九郎殿の命により、明日、未の刻に内裏女房を御案内申す」

と土肥実平からいわれたのは、ひき廻しの日から二、三日がすぎた朝であつた。

実平によると、親子は今、安徳幼帝にかわつて位についた五歳の後鳥羽天皇の内裏に仕えているという。

「忝けない」

面をあげて重衡は礼をいった。実は義経が親子との対面のとりはからいを約束して以来、心はこのことで一杯だったのである。

鎌倉下向を前にして仏門に帰依することもあるされず、死の恐怖と闇にとざされていた重衡であつたが、親子との対面によつて、何か新しいのぞみがひらけてくるような感じもする。

親子その人へのなつかしさに加えてそんな思いが心にうかぶのを断ちきれない彼は、以来ここ数日というものの、ただ一途に親子との対面に己を賭けようとしていた。

「して、対面の手段は」ことは少なにも重衡は訊ねた。

実平は答えて、

「三位殿は大切なお預かりびと。御堂の警護を留守にして、私が内裏にまいることはできません。だれか配下の武者をかしこに迎えにやりましょう」

「下郎——」思わず口からでかけたことばに、ハッと気づいた重衡は、

「それはならぬ」

声が大きくなつていた。

「無礼であらう」

頬が紅潮してくるのが自分でもわかる。重衡はいっしゅん大きく息をすいこんで呼吸をととのえと、

「帝のお側近く仕える女房ではないか。加えて、賢臣のほまれ高かつた参議民部卿の御女である」

「——お連れ申してはいけないと仰せですか。しかし、三位殿がかしこに赴かれること

はできませんぬ」実平はげんな顔をした。

「おお、そこよ」

重衡は嘆息して、

「この堀川の御堂の周囲をご覧よ。東国の武者たちが十重二十重にとりかこんでいるではないか。都では、公卿の姫や内裏に仕える女房たちは、外の男に姿や顔などみせぬならいぞ」

「ではどうすればよいのですか。九郎殿からは、内裏女房殿をお連れ申せ、と命じられているのですが」

「西海におもむく日まで、この重衡に仕えていた木工右馬允政時という侍がいる」重衡はいった。

「政時は今、洛西常盤殿におわす八条女院様にお仕えしている筈。まずこの者をここに呼んでいただきたい」

つい何日か前までは戦場の血なまぐさい修羅場をかけまわり、討死した平家公達の首を槍に突きさして都大路をねり歩いた源氏の武

者たちである。

この東国土着の荒武者たちが、殿上に仕える上臈女房の親子をみて、どんな乱暴をしないとかがらなかつた。

親子との対面がきまつてから、重衡のもう一方の心を支配していたのはこの懸念で、そして彼は一つの案を思いついていた。

都落ちの日のことだ。

「どこまでもお伴を」

といって泣きすぎる政時を、

「侍とはいえ、弓矢の扱いかたも心得ぬそなたを伴うては、足手まといになるといふもの。それよりも都にのこり、われらが凱旋して都に帰る日を待て」

といって重衡は、彼を八条女院のもとにいかせたのである。

この政時ならば、敗将となつて幽閉されている重衡の求めにも応じ、その願いをあやまずにきいてくれよう。政時を使者にして親子を迎えにやればよい。

「そなたたち源氏の武者ではなく、この政時を使者にして、内裏女房の局に迎えの車をだしていただきたい。私が女房への手紙をかいで、政時にもたせよう」

虜囚の身ながらも、威厳のこもる、実平に有無をいわせぬ強い語調で重衡はいった。

十八

翌日、「女房殿の御車が、ただ今、車寄せに到着しました。すぐにご対面を」

と実平が告げてきたのは、ちょうど未の刻にかろうとするときであつた。

重衡はすぐに立ちあがり、幽閉されている板間を出た。

さつとその前後左右を源氏の武者たちがかためて重衡とともに歩いていく。

武者たちに警護されていくつかの廊を曲がると、ちょうど天の橋立か何かのように、そこだけ庭に向かって一つ細長く延びた廊があ

り、その廊の先端が車寄せ、つまり今風にいえばガレージになっている。

車寄せに近づくと、一輛の大きな檳榔毛の女車が、ひっそりと止まっているのが重衡の目に入ってきた。

思わず、足が早くなる。

親子の姿を武者たちの目にさらさないため、彼女は車を降りず、二人は車のなかでしほしの対面をすることになっているのだ。

「もうよい。逃げも隠れもせぬ。ここで待たれよ」

重衡は実平をはじめ警護の武者たちにそういうと、榻から檳榔毛のすだれをあげてなかに入った。

車のなかは、前に二人うしろに二人、坐れるほどの広さである。

ここで牛車に乗る作法についていうと、榻とは車のなかに入るための踏み台のことで、この榻を使い、乗るのはうしろから。そして車の前方から降りるのである。

重衡の背後ですだれが降りる音がした。両側の窓をとぎした車のなかはうす暗く、早春の明るい陽ざしにつつまれた廊を歩いてきた重衡は、車のなかがよくみえない。

義経や実平がまさか彼をたぶらかすとは思えなかったが、

「親子か」

と重衡は低い声でよんだ。

「殿！」

そう答えるより早く、吸いこまれるようにして親子は、香をたきしめた桂とからだで重衡を抱きしめてきた。

こんな場合、恋人たちにとって時間はいくらあっても足りるものではない。

二人は、半刻（一時間）という定められた時間のことなど忘れ去って、互いの項と項を寄せあい、手と手を握りあっていた。

「三位殿、四半刻が過ぎ申した。あと四半刻でござる」

檳榔毛の外で実平が声をはりあげてそういつたのは、車のなかが周囲の武者たちの喧騒をよそに、あたかもそこだけとりのこされたように物音一つせず、静まりかえっているのに不安を感じたからであろう。

「あと四半刻、四半刻でござる」

実平は大声でくり返した。

その声にはつと我に返った二人は、そのまま項を寄せあっていたが、やがて親子がささやくように、

「なぜ、私を西海にお連れくださいませんでした。お恨みいたします」

「許せ」

重衡は親子を抱いたまま、

「そなたに連絡するゆとりとてない慌ただしい都落ちであつた。されど」

ことばを切り、親子の長い黒髪をまさぐりながら、

「西海に伴うたならばそなたをも合戦の修羅場にまきこむことになったかもれぬ。都に居

残つておればこそ、こうして再会がかのうたではないか」

そのことばにハッとした親^{ちかこ}子は、からだをはなすとその瞳でじつと重衡をみつめていたが、やがて静かな、しかし力のこもる声で、

「御安心なさいませ」といった。

政時が持つてきた重衡の手紙には、堀川の御堂内での対面がゆるされ、迎えの車を出すということと共に、南都を焼亡させた大罪におののき、懺悔をきいてくれる僧との対面を切望しつつもそれが許されぬ苦悶が、切々としるされていたのだ。

「おお」

重衡の口から、低いことばともつかぬ嘆息がもれた。

「読んでくれたか、手紙を」

「もとよりのこと」

親^{ちかこ}子はそういうと、重衡の両腕を衣装の上からしっかりと抱きしめて、

「兄基親は、早くより法然上人様に帰依しております。殿がおすがりになれる御僧は、この法然様以外におられませぬ。法皇様のおゆるしは、この兄と大原の里に隠棲しております父親範がいたできてくれましょう。お心強う思召されませ」

石丸晶子（いしまるあきこ）

東京生まれ、東京大学大学院人文科学研究所修了。現在東京経済大学教授。一九九一年、『式子内親王伝―面影びとは法然』で第一回紫式部文学賞を受賞。著書は他に、『法然の手紙』（人文書院）『お手紙から見る法然さま』（浄土宗出版室）『現代語訳蜻蛉日記』（朝日新聞社）など多数。

連載

雑誌

『浄土』

を支えた人々

列伝

仏教ルネッサンス再び。珠玉の一冊『念佛読本』執筆者たちの足跡

情熱の華嚴学人
稲垣真我先生

(二八八七〜一九八八)

真野龍海

●稲垣真我先生

明治二十年（一八八七）愛知県に生まれ、十歳、仏門に入られました。明治四十五年宗教大学（現大正大学）卒業。まず、布教に活動され、特に朝鮮開教は七年に及んだ。大正九年から二年、浄土宗外国留学を命ぜられ、オックスフォード大学で宗教学・社会事業を



学ばれた。

大正十三年から昭和十六年まで、仏教専門学校（現仏教大学）教授、同十六年から二十五年まで、東海中学校の理事・理事長、新制東海中・高等学校の初代校長、理事長を勤められ学園の地位を不動のものとされた。同二十五年から三十六年まで、仏教大学教授、学長（二期）として新制大学の基礎を固められた。同三十八年から四十一年まで、ハワイ浄土宗開教総監に赴任され、同四十二年勲三等瑞宝章を受けられました。同六十三年（一九八八）、百一歳を以て、逝去されました。

上人については『稲垣真我先生遺文・追悼文集』（平成二年発行、今回は奈倉道隆先生から拝借）に詳しい。同書の渡欧の来信に、オックスフォードでは私の師匠真野正順と二人でリス・デヴィッツを訪ねたが、浄土宗では今二人だけ英国にいる、とあります。御縁

● 樺田貞我先生

を不思議に有り難く思います。上人は大正三年に開教師として北朝鮮鎮南浦に赴任されたが、私の父、前田進龍も明治四十三年頃から開教に行っており、そのころは近くの新義州教会所で、幼稚園を創めていたので、お目にかかったはずで。

また、上記書物に上人の『近世浄土宗と華嚴学人』という論文に注目したいものです。まず、浄土宗の諸学校が、「明治二十年芝天光院で開校式をあげた本校は、二十四年一月には小石川に移転して「高等学院」となり「浄土宗大学」より「宗教大学」となり、大正末年「大正大学」となり、…」と略述されてあります。さらに「予科卒業生が…俱舎、唯識、華嚴、天台の四部に分かれて、その一部を専攻するように組織せられていた。」と全体を述べ、それを受けて望月、渡辺、椎尾、松田、大野、石井の諸權威が浄土宗学人とし

て活躍されたと記され、浄土宗として『華嚴經』の重要なことも注目されています。今日、浄土宗で此の方面の学問を研究する者が寥々なのは寂しいですが、上人は夙に注意を払っておられるのは尊いことです。『華嚴經』の嚴は浄土三部經の大・小無量壽經が、梵名が極樂を具えた莊嚴經といわれるくらい関係が深く、また、椎尾上人の共生とも深く関連します。大方の人はそこまで溯って共生を理解することが少ないようです。しかし、「続いて椎尾氏が、三論研究を中核とするその仏教総合学を体系づけられ、みずから天地万象の総合運動とその大生命を信じ、共生真人として振天動地の活動となり、嚴肅なる華の法界に人と物、生と無生とを融通してよく草木国土瓦礫微塵世界にまで、阿弥陀の命とひかりとを拝まれる姿は、何人といえども華嚴信入なりと仰ぐことができ、浄土宗の華嚴学はこ

のようにして最高峰を造りあげたことを忘れてはなるまい。と注意せられている。

特に、私は伝道部で、御指導を受けました。

僧たるもの何人も法を伝えるということは使命であります、それは小手先の技術ではなく、信を心から心へ伝えるものであります。

先生は細かいことはとにかく、情熱溢れる講義そのものから生徒を導いて行かれた。その講義たるや講壇を所狭しと闊歩しながら、身振り手振りの力の入ったお話なのであります。

た。説き来たり説き去り聞く者をして飽かしめず、布教伝道への敢闘精神を奮い起こさせました。生徒達は京洛の巷に、北野、真如堂、宇治等々に展開して教えを説いたり、社会教化の実習、地方伝道の旅に出る、等々の活動を以て応えました。このような伝道の心は、不退転の信となり、僧たるもののバックボーンとなるものです。多くの門下生は活力ある御指導を忘れることはないでしょう。

(浄土宗教学院理事長)

仏教ルネッサンス、再び
珠玉の一冊此処に復刻成る

完全復刻『浄土』昭和十一年十一月號持輯

執筆者一覽

念佛讀本

石眞大佐中椎
井野野藤村尾
教正法賢辨辨
道順道順康匡

稲小佐江島笹
垣西藤藤野本
眞存春激禎戒
我祐夫英祥淨

中松梅矢井

野浦原吹川
善眞慶定
英一隆輝慶

(目次登場順)

念仏者必携の書！【特別頒価二千円—送料込み—】

■申し込み・問い合わせ■

法然上人顕仰会

〒105 東京都港区芝公園4-7-4 明照会館内

電話：03-3578-6947/FAX：03-3578-7036

どの方向に向けて探しても、自分より愛しいものは見出されない。そのように、他人にとつても、それぞれの自己が愛しい。だから、自分を愛しむことによつて他人を害してはならない。

（『相応部經典』Ⅲ・一・八・八）

私への愛、あなたへの愛

恋——愛

男女が互いに互いへの愛を囁き合う。いつの世とて、どことて変わらぬこと。

自分にとつて相手がいかに魅力的であり、大切であり、愛しい存在であるかを伝え合う表現方法はさまざまだろう。それが巧みでカッコイイ者もいれば、どこか頼りなく、ぎこちない者もいる。それがまた、おもしろくもある（失礼！）。

冒頭の一文には次のような前章話がある。コーサラ国のパセーナディ王とその后マッリカーが、城の高樓で会話をしている。

后「私には自分自身よりも愛しい人は他にはおりません。王様はいかがですか」

王「マッリカーよ、私も、自分自身よりも愛しい人は他には見当たらない」

この会話のあと、王は釈尊のもとへ赴いて一部始終を伝え是非を問う。それに対する釈尊の返答が、冒頭の一文だった。

高樓での王と後の会話というと、それだけで十分にロマンチックな想像をかきたてるが、そんなものではなかった。

王と后がどのような馴れ初めで夫婦となったかまでは調べていない。言い名付けとして「流れ」の上でそうなったことなのか、その上に「熱愛」が加わったことだったか……。いずれにしても、結婚後、長い星霜を積み重ね、苦楽を分かってきた二人が、まさに「この期に及んで」相手にこんな告白をさせしめたものは何だったか。しかもそれは、後の一方的な気持ちではなかった。双方がそう感じていたのだという。

現代のドラマ脚本ならば、さしずめ「長い結婚生活——倦怠感——

互いに互いの道を歩もう」とでもなるのであろうが、そうではなかった。王と後の思考は、相手に背くベクトルを持つものでは決していないのである。そこが、ありふれたドラマとの大きな違いだ。

自分自身の愛しさ、大切さを再確認、再認識することによって、相手への想いはいよいよ増すことを知らされる。逆に言えば、相手

に対する自分の想いの度合いは、自分へのその度合いによって測れるものなのかもしれない。

ただし、王と後のこのやりとりを真似ようと、突然奥さんに切り出すのは危険が伴うので止めた方がよいことだけはお断りしておく。諸事に対する日頃の真摯性が互いに認められているという条件を満たしていないと、あらぬ嫌疑をかけられ、かえってよからぬ方向へ事が進展してしまうかもしれないから。

しかし、この「自分への想い」を確認することは大事だと思う。これに不足がある時、あれほど熱烈だった相手への想い、愛しさも、自分でも驚くほどにあっさりと崩れてゆくのもかもしれない。

「自分への想い」は、真剣であればあるほど「他への想い」となっているのである。

六月——ジューン・ブライド

愛と希望に満ちあふれ、手を携えて人生のあらたなスタートを切る、すべての人々へ——

(小村 正孝)

浄土宗と浄土真宗の違い

在家の信者さんたちが第一番に気がつくことに、「法名の違いがあります」。

浄土真宗では受戒ということがないために、どんなときでも「戒名」とはいわず、必ず「法名」といいます。

つまり在家の信者はもちろん、僧侶になるときにも、授戒会を受けることはなく、得度式としてすべての式が行われます。これは浄土真宗では、我々凡夫は阿弥陀さまの本願の働きによって救われるのであって、自

分自身の力はそこに何も介入しえないわけで、したがって我々自身が「戒」を受ける必要はないということです。

そして浄土真宗では法名は原則的には二字だけで、その上に「釈」をつけ「釈〇〇」とします。「釈」とは真宗に帰依する者が、等しくお釈迦さまのお弟子（仏教徒）であることを示しているそうです。なお女性の場合は「釈尼〇〇」と「尼」の字を入れる場合もあるようですが、最近はいれないことが多い

その3 ご法名

ようです。「院号」などは篤信の方に与えるようですが、原則的には「位号」である居士、大姉、信士、信女をつけることはないようです。

浄土宗の法名の特徴は、五重相伝を受けた方をはじめ、篤信の方に「誓号」をおつけすることでしょう。それ以外は伝統仏教教団の他の宗と同じで、道号、位号も伝統的につけています。

法名の長さにこだわる心を、根底から否定しているのが浄土真宗のようです。（つづく）

古き伝統技 三代にわたる信頼

有限
会社

浄土宗法衣専門

古島法衣店

〒111東京都台東区元浅草4の2の1

電話(03)38421289

振替001802145231



FORUM

浄土の広場

「浄土の広場」では

読者の自由な参加をお待ちしています。

詩、エッセイ、短歌、俳句、川柳、書評、映画評、

TVウォッチング、紀行文、その他創作等。

あるいは会員各寺院での催しの告知、報告など。

どしどし編集部にお寄せ下さい。

楽しく お寺へ をテーマに 開山四〇〇年 の年を

東京・貞源寺 藤木芳清

当山は、春公上人により慶長六年（一六〇一）、江戸に開山されました。したがって今年は四百年目となりますので、一昨年の年度総会で総代・世話人の方々とご相談の上、開山記念法要を十一月十二日に行うこととし、それまでの一年間を通じて、「楽しくお寺へ」というテーマのもとで、年中行事を行う事になりました。

内容としては、昔を偲ぶために全行事を旧暦で行い、各行事に、能を初めてする伝統芸能の方々に奉納をして頂いております。

寺が布教・教化の場であることはいうまでもないことですが、同時に「伝統文化を傳承する場」でもあり、特に町中の寺は文化の繼承を通して布教・教化を行ってきたのではないかと。今風にいえば、「心」をテーマとしたテーマパーク、アミューズメントセンターといった役割を果たしていたのではないかと。こうした考えから、前述の「楽しくお寺へ」というテーマが決まったのです。

前述のように全年中行事を旧暦で行うことに致しましたので、旧暦一月一日にあたる二月五日より四百年祭の行事を始めましたが、盆や正月など、定着している行事を無視するというわけではありませんので、現行暦の一月一日に【修正会】をお勤め致しましたので、二月五日の旧元日は内容は同じですが、【修二会】としてお勤めいたしました。

法要に続いて、大藏流狂言の山本則孝師、大倉流大鼓の大倉正之助師、幸流小鼓の幸信吾師、一噌流笛の一噌幸弘師に【三番三（三番叟）】を奉納していただきました。ご存知の通り通常【三番三】は能の【翁】と共に上演されます。【翁】で天下太平を祈願し、【三番三】でその事を寿ぎ大地に種を蒔くわけですが、【修正会】も天下太平を祈願する法要ですから、法要・奉納と分けて行うのではなく、法要の後に続けて演じて頂きました。

また、お彼岸の中日法要の後で観世流の津村禮次郎師に【西行櫻】を奉納していただき

ましたが、これは詞章の中に「それ春の花は上求本来の梢にあらわれ、秋の月下化冥暗の水に宿る。誰か知る行く水に三伏の夏もなく、潤底の松の風、一声の秋を催すこと、草木国土おのづから、見佛聞法の結縁たり」という言葉がありますので、真西に沈む夕日にお浄土を想う事も同じだということをお願い致しました。

能は特にその行事にあつた演目が多いのですが、他の芸能の方々も、それぞれ相應しいと思われる演目を選んで奉納して下さいます。江戸開府と同時に開山された当寺の歴史を偲ぶ上で、江戸の庶民芸能を奉納していただくことは、それだけでも意義深いことだと考えております。

別項の日程表にありますように、殆どの行事の後で、宗家、或いは当代一流の方々が奉納して下さいますが、不思議なことに、そういう方々ご縁は、開山四百年祭をしようと考え始めた数年前から急に増え始めたのです。



それ以前には殆どご縁がありませんでした。また、殆どの方が快く奉納に応じてくださいます。

寺が奉納をする方々を歓迎しているというだけで、多数の方々とのご縁が出来、こうした催しに参加してくださいます。

わたしは法式を教わった最初に、「心は形を求め、形は心を育てる。この事は肝に銘じるように」といわれました。

人の創り出したすべてのものは、心が求めたものであり、わたし達はそれを守り継承すること、心を育ててきたのだと思うのです。

法然上人が求められたものが日本人の心が求めたものであり、法然上人がお説きになられたもので日本人は心を育ててきた。

この一年の行事を通じて、その事を表現出来ればと、そんなことを思いつつ、総代・世話人の方々共々、四百年祭を行っております。

貞源寺開山四〇〇年記念行事日程

【修二会】2月5日(土曜日・旧1月1日) 法要 午前11時より

奉納 【神楽式 三番三】 舞 山本則孝師 (大藏流狂言)

囃子 大倉正之助師(大倉流大鼓) 幸 信吾師(幸

流鼓)

一噌幸弘師(一噌流笛)

【法然上人御忌】2月27日(日曜日・旧1月23日)

法要 午後3時より

奉納 【一枚起請文】薩摩琵琶 荒井姿水師(薩摩琵琶)

【彼岸・中日法要】3月20日(春分の日) 法要 午後1時より

奉納 【西行桜】 シテ 津村禮次郎師(觀世流シテ方)

後見 足立禮子師(觀世流シテ方)

地謡 中所宣夫師(觀世流シテ方) 他

囃子 大倉正之助師(大倉流大鼓) 他

【開山上人忌】4月20日(木曜日・旧3月16日)

法要 午後1時より

【花まつり】5月13日(土曜日・旧4/8は5月11日)

法要 午後1時より

奉納 【地唄舞】 舞 山村千代恵師(地唄 新町山村家)

地方 富山清隆師

【大施餓鬼会】6月25日(日曜日・例年は6/30)

午前11時 受付開始

正午 ご法話 目黒蟠竜寺御住職 吉田轟雄上人

午後1時 落語 【お血脈】演者未定

午後2時 ご法話 天野信浩上人(渥美・栖了院副住職)

午後3時 大施餓鬼会法要

【孟蘭盆会】7月16日(日曜日) 法要 午後4時より

落語 【法事の茶】 鈴々舎馬桜師

【地藏盆】8月24日(木曜日) 法要 午後1時より

【彼岸・中日法要】9月23日(秋分の日) 法要 午後1時より

奉納 【一中節・清元】 宇治はる師 他

【江戸小唄】 勇希波つ帆師 他

【菊の節句】10月7日(土曜日・旧重陽は前日)

法要 午後1時より

奉納 【菊慈童】 仕舞 足立禮子師(觀世流)

【菊の盃】 舞踊 藤間勘七孝師(藤間流)

地方 岸澤満佐子師(常磐津) 予定

【歸敬式】10月29日(日曜日) 午後1時より

(歸敬式とは浄土宗入信の儀式です)

ご法話 日下部謙旨上人

【十夜・別時念佛】11月1日〜10日

別時念佛 毎日午後5時〜7時まで

11/3・4・5の連休に【十夜法要】【講演会】【佛教勉強会】な

どを開催予定

【開山記念法要】11月12日(日曜日) 午後11時より

浅草囃子の音に乗って法要を始め、法要終了後、始め様々

な伝統芸能を継承される方々の奉納を頂きながら、貞源寺の

開山四百年を祝います。

●その他催事

【新井英一ライブ】4月1日(土)午後4時開場 5時半開演

【洋楽演奏会】7月22日(土)午後4時開場 5時開演

出演 中村ヨシミツ氏(ギター) 吉岡龍見師(尺八)

平松加奈氏(ヴァイオリン)

浄土誌上句会

●虹

〈特選〉

虹いつも一緒に見しが妻消ゆる

柴崎 亮一

●夫人は亡くなられたのだろうか。虹が出ると、いつも相手を呼んで一緒に見たのだろう。虹だから、人間にも消ゆるという語を用いたのだろう。ふり返って夫人を思う気持ちにじみ出てくる。

〈佳作〉

筑波嶺の空の真澄みに虹立てり

河合富美枝

窓近く虹迫り来る山の宿

谷 しげ子

虹二重伊良湖に渡る船の音

井村 善也

●トマト

〈特選〉

熟れしより青きトマトの香に執す

片桐てい女

●トマトというのは、以前はもつと青くさかった。改良という名のもとに野菜から何から、どんどん本来の香りが失せていく。青いトマ

選者=増田河郎子

〈特選〉

田の水を姿見にして山笑う

小久保あきを

●自由題

トの香りに執する気持ちは、私どもには十分理解できる。

〈佳作〉

皿の上のトマトが水を撥ねている

嶋神 涼子

もぎたてのトマトがぶりと陽のおう

中村 陽子

隣りの庭添え木傾けトマト熟る

石原 新

●山が田の水を姿見にできるはずはない。水に映る自分の姿は、山自身には見えないのである。田に映る山を見ているのは自分なのを、このように表現したところが面白いのである。俳諧（こっけい）である。

〈佳作〉

冬構え解けば月山迫りくる

匿名

古本を読みいる屑屋花の昼

北川 弘子

風呼んでおのれはなやぐ落花かな

島谷ときを

虹

閑越をぬけてひだりに虹渡る
喜寿となり虹のかけ橋何処にする
弓なりに一文字して虹消える
虹の橋くぐりて戻る漁船かな
虹懸けて利根源流に調査隊
虹立つや畠のやさいみづみづし
地蔵講ふれくる鐘や夕の虹
架け橋の穢土と浄土を結ぶ虹
つかの間の列車の窓に虹の見ゆ
煙突の町にかかりし淡き虹
島つなぐ虹に真向い大漁旗
朝虹の欠け初む所薄日もる
虹消ゆるまでの横顔まぶしけり

吉里ひとみ
上野明達
長尾子浪
河合富美枝
片桐てい女
金谷友江
匿名
横井龍行
瀬川浩子
中村陽子
石原 新
谷しげ子
神田弓絵

トマト

味薄きハウス育ちのトマトかな
水百選柄勺にのせて出すトマト
ミニトマト逃げては挟むバイキング
トマトにも名の付いており桃太郎
父作るトマトブサイク味一番
新鮮な朝のトマトに今日を生く
スパゲティトマト溢れて盛られけり
こんこんと湧く水底にトマト冷ゆ
トマト苗売る店先や初夏の風
食べ頃とトマトをまげば鳥のあと
夏空や真赤な頬に似たトマト
自由題

瀬川浩子
井村善也
増田信子
瀬川浩子
吉里ひとみ
上野明達
長尾子浪
河合富美枝
中島一子
金谷友江
横井龍行

浄土誌上句会のお知らせ

季題

緑陰
西瓜
自由題

締切・七月二十日

発表・『浄土』九月号

選者・増田河郎子（『南風』主宰）

応募方法

●いずれの題とも数の制限はありません。

●特選各1名・佳作各3名

●葉書に俳句（何句でも可）と、住所・氏名を必ずお書き下

さい。

宛先

〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4 明照会館内

月刊『浄土』誌上句会係

ちぎり絵に染め分けられし春の草
修道の園閑もりて桜咲く
あめんぼの禪定まつこと水鏡
うつし世も女のがの蟻地獄
啓蟄や緑談まともりそつな朝
梅雨さなか檀林の僧黙読す
対岸の点り初めたり夕蛙
杉落葉匂う谷地や蛙鳴く
谷底の一本桜咲きにけり
航跡も船もとけ入り春風
一年生足の届かぬ椅子廻し
花曇り欠伸をもらい受診待つ
初燕村賑やかに宮普請

河合富美枝
中島一子
片桐てい女
金谷友江
匿名
長尾子浪
島谷ときを
三橋仁平
増田信子
瀬川浩子
石原 新
井村善也
浜口佳春

マンガで楽しい仏教用語 漫画・藤井ひろし

大丈夫

「だいじょうぶ」とはもともと
としつかりした人、頼りがい
のある人のこと。菩薩と称さ
れる人の代名詞でもあった。

丈夫に美称、尊称の「大」が
付いたのだが、丈夫はじょう
ふと読み、一人前の男子のこ
と。じょうぶと読めば健康の
意味。この大丈夫、今では副
詞的に使うのが一般的で、危
なげがない、確かなこと、安
心なことを言う。

FORUM

さて、ころんでしまったお
兄ちゃん。大丈夫と聞いて欲
しくないようですが、皆さん
ならどう聞きます？



編集後記

少年がニュース独占五月間

岱潤

五月の初め日本中が十七歳の少年のニュースに独占された。ひとつは豊川市でおきた婦人惨殺事件であり、もうひとつは三人もの婦人を殺傷し、うち一人を死にいたりしめた十五時間に及ぶバスジャック事件である。

豊川市の少年は「人を殺す経験がしたかったら」と犯行の動機を語り、バスジャックの少年は、警察を呼んで病院へ強制入院させたことなどからくる親への不信や、バスの拘束者が次々に逃げ出すなど、自分の思い通りにならないことへの腹立ちが殺傷の原因と想像される。

神戸で土師淳君を惨殺した少年は、

「人を殺すことは自分を殺すことだ」と語り、昨年京都の日野小学校で中村俊樹君を殺害した青年は、教育への不満を訴えた文だけが残った。

彼らは皆、殺す相手は誰でもよかったわけであり、ただただ自分自身の心の空虚さを埋めるためにナイフを振り下ろしたわけである。

一方国会会で「幼児虐待防止法」が成立した。それぞれの家庭のしつけという理解の中で、親権者の幼児虐待を第三者がいうことさへ疎まれていた十年前からすれば考えられないことだが、警察でわかるだけでも幼児虐待による子供の死亡は、五年間に三百人を越す現実がある。この国はいいたいどうなってしまうのだろうか。(長)

編集チーフ
編集スタッフ

長谷川岱潤
斎藤光道
村田洋一
佐山哲郎
間川彰道

編集顧問

大室了昭

浄土

六十六巻 六月号 頒価六百円
年会費六千円

昭和十年五月二十日第三種郵便物認可

印刷 平成十一年五月二十日
発行 平成十二年六月一日

発行人 真野龍海

編集人 宮林昭彦

印刷所 株式会社 シーディーイー

〒一〇五・〇〇一一
東京都港区芝公園四・七・四明照会館内

発行所 法然上人鑽仰会

電話 〇三三・五七八・六九四七
FAX 〇三三・五七八・七〇三六
振替 〇〇一八・〇八八・二八七



道路工事中



消火器



歩行者横断禁止



火気厳禁



止まれ



雷厳禁



静かに



足元注意



トラクタ



出口



落下物

住友海上

代理店

安心と安全をお届けするのは、
このマークです。



禁煙



割れ物注意



安全第一



歩行者注意



取扱い注意

ここにあるマークの意味、わかりますか？暮らしの中には、注意を呼びかけるマークが、ほんと、たくさんあるんですね。生活のいろんな場面で、みんなが注意し合って、ルールを守っている。だからこそ、私たちは毎日を穏やかに、安らかに過ごせます。でも、万が一のときのために、覚えておいて頂きたいマークがあります。それは、あなたに安心と安全をお届けする、このマークです。保険のことは、あなたの街にある住友海上代理店へ。

安心と安全をお届けする



住友海上

〒104-8252 東京都中央区新川2-27-2 TEL:03-3297-1111(大代表)

『浄土』特選頒布会

ご注文・お問い合わせは法然
上人鑽仰会まで。

【水晶数珠】

電話：03-3759-7074

FAX：03-3759-6323

【布教額・選択集十六章之図】

電話：03-3578-6947

FAX：03-3578-7036

肌身はなさず、
仏さまの御加護を

水晶 数珠

水晶腕念珠



水晶数珠プレスレッド

- 水晶腕念珠 ① 6ミリ珠・M(16センチ)2,200円
② 6ミリ珠・L(18センチ)2,500円
- 水晶数珠 ③ 6ミリ珠・M(16センチ)2,200円
プレスレッド ④ 6ミリ珠・L(18センチ)2,500円
⑤ 8ミリ珠・M(16センチ)2,700円
⑥ 8ミリ珠・L(18センチ)3,000円

- ・申し込からお届までおよそ3週間です。
- ・送料は一個口あたり300円です。また別途消費税がかかります。
- ・支払いは商品のお届時の代金引き替えです。
- ・商品の品質に関しては万全を期しておりますが、配送時の事故、不良品、誤配送などについては送料当方負担でお取り替えいたします。



仏壇用宗旨布教額

家庭の仏壇にぴったりの布教額です

大(320×183ミリ)

1,260円(送料別)

小(273×142ミリ)

480円(送料別)

平成11年6月より頒布価格が変わりました

選択集十六章之図

選択本願念仏集を絵で解きました

豪華額装入り(585×465ミリ)
20,000円(税・送料別)解説書入り
(お届まで4週間かかります)

